# 名古屋城 子ども博士になろう

学習シート「二之丸庭園」編

## ― 二之丸庭園は、どのような庭園だったのでしょう ―

### 日本最大級の大名庭園

名古屋城の二之丸庭園は、初代義直以来、代々の藩主が居住し、藩の政庁がおかれた二之丸御殿の御庭でした。国の名勝として指定されている範囲は、約3万㎡に及び、藩主が居住した御殿の庭としては、日本最大級の大名庭園です。二之丸庭園は江戸時代を通じてたびたび改造が行われ、今日まで受け継がれてきています。

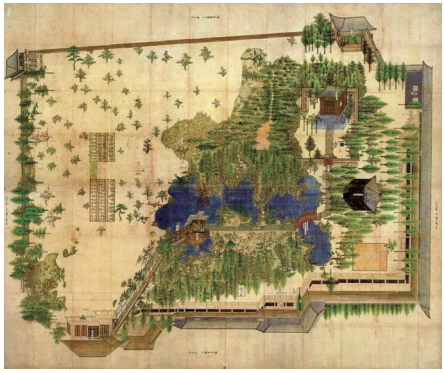
※江戸時代の二之丸庭園は、二之丸御庭と表記しています。

| 時代 | 年 | できごと |
|---|---|---|
| 江戸 | 1617(元和3) | 二之丸御殿が完成しました。 |
| | 1620(元和6) | 初代義直が本丸御殿から二之丸御殿に移り住みました。 |
| | 1628(寛永5) | このころまでに「中御座之間北御庭惣絵」に描かれた北御庭が完成したと考えられます。 |
| | 1818～1830(文政期) | 10代斉朝が御庭の大改造に着手しました。「御城御庭絵図」に描かれた庭が完成しました。 |
| 明治 | 1873(明治6) | 二之丸全域を陸軍省が管理することになり、御殿や建物が取り払われて兵舎が建設されました。北御庭の園池と築山の大部分は、将校集会所の庭として保存されました。 |
| | 1881(明治14) | このころまでに将校集会所の南側に「前庭」がつくられました。 |
| 昭和 | 1953(昭和28) | 二之丸庭園(北御庭の一部と前庭)が国の名勝に指定されました。 |
| | 1967(昭和42) | 「名勝二之丸庭園」が公開されました。 |
| | 1969(昭和44) | 「二の丸茶亭」が開所しました。 |
| | 1975～1976(昭和50～51) | 名古屋市教育委員会により、名勝二之丸庭園の東側の発掘調査が行われました。 |
| | 1978(昭和53) | 二之丸東北部分が「東庭園」として整備され、現在見られるような二之丸庭園の姿になりました。 |
| 平成 | 2018(平成30) | 二之丸庭園のほぼ全域が名勝に追加指定されました。 |

## 初代義直によって大陸（中国）の影響を受けた二之丸御庭がつくられました

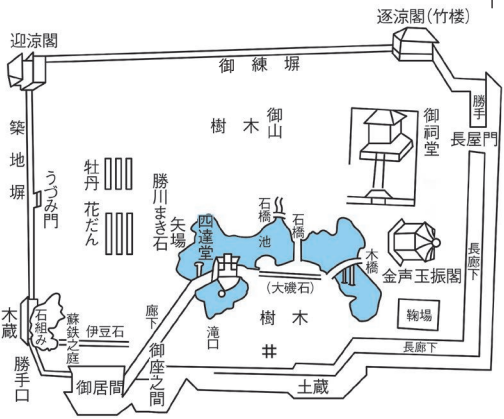
初代義直は、1620年（元和6）に本丸御殿から二之丸御殿に移り住みました。

二之丸御庭は、1628年（寛永5）までにつくられたと考えられています。この御庭には、大陸（中国）の影響を受けた建物が各所に建てられていました。このころの北御庭を描いた絵図として「中御座之間北御庭惣絵」（名古屋市蓬左文庫蔵）が残されています。



「中御座之間北御庭惣絵」（名古屋市蓬左文庫蔵）

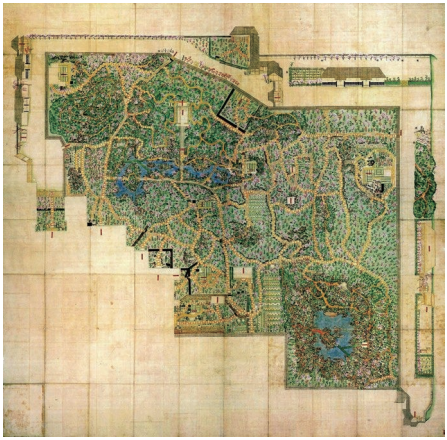
略図を見ると、藩主の御居間（中御座之間）から「四達堂」に向かって渡り廊下を設けていたことがわかります。御庭の中央には、水をたたえた大池（北池）が描かれていて、中ほどに石橋が架けられています。園路を東に向かい、木橋を渡って北に進むと、「御祠堂」（孔子を始め儒教の聖人を祀った聖堂）にいたります。その南側には、「金声玉振閣」（儒教の経典を収蔵したと思われる書庫）とよばれる黒塗りの八角形の建物が描かれています。




「中御座之間北御庭惣絵」（略図）

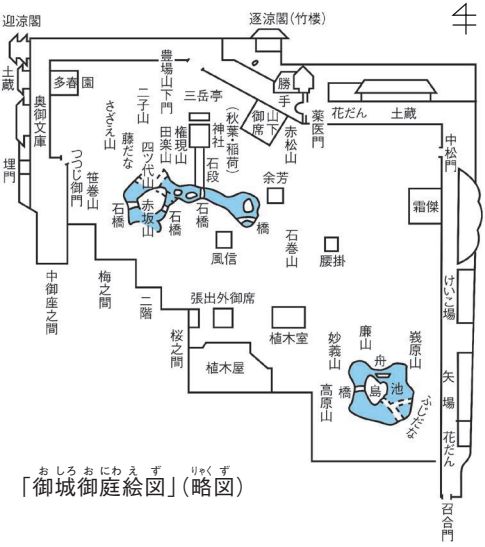
## 10代斉朝によって二之丸御庭の大改造が行われました

文政期（1818～1830）になると、10代斉朝により、二之丸御庭は大きく改造され、御庭の規模も義直のころと比べて2倍半くらいに拡大されました。この時期の御庭を描いた絵図として、「御城御庭絵図」（名古屋市蓬左文庫蔵）が残されています。



「御城御庭絵図」（名古屋市蓬左文庫蔵）

略図を見ると、「御山」（権現山）のほかに田楽山、四ツ代山、二子山、栄螺山などいくつもの山が築かれています。御庭には多くの園路がめぐらされ、築山や池の周りを散策できるようになっていました。御庭は東側にも大きく拡張され、各所に「山下御席」、「霜傑」、「余芳」「風信」などの御茶亭が設けられ、南池がつくられました。




「御城御庭絵図」（略図）

## 陸軍期の二之丸庭園

1873年（明治6）、二之丸は、陸軍省によって管理されることになり、御殿や建物が取り払われた跡に練兵場や兵舎が建設されました。その際、権現山や栄螺山の一部が削られ、御庭の大部分は盛土によって埋め立てられました。このため、斉朝によって大改造が行われた二之丸御庭は、近代になると規模が縮小され、北御庭の園池と築山を残すのみとなりました。その一方で、新たに前庭がつくられました。

## 二之丸庭園の発掘調査

1975年（昭和50）から1976年（昭和51）にかけて、二之丸庭園の東側で発掘調査が行われ、暗渠（地下排水路）遺構や南池、御茶亭「霜傑」の遺構が確認されました。

御茶亭「霜傑」跡

その後、名古屋市は樹木の生長や石組みの崩壊により損なわれていた二之丸庭園の景観を回復するために、2013年（平成25）から発掘調査にとりかかりました。調査は、名勝に指定されている北御庭を中心に行われ、「御城御庭絵図」に描かれた御庭の遺構が何か所も確認されました。栄螺山の北西端では、御茶亭「多春園」の赤く着色された三和土や園路の飛石が確認されました。

御茶亭「多春園」の三和土と飛石（発掘時）

北池の池底には、藤棚の柱や橋脚の礎石、護岸には水生植物が植えられていたと思われる植桝が地表面の観察で確認されています。

北池の池底

## 庭園の復元と整備

現在、主に発掘調査の成果をもとに、庭園の復元と整備が進められています。

復元された権現山の石段

北池の東側では、御茶亭「余芳」（名古屋市指定文化財）の移築再建が行われました。

二之丸庭園図

名古屋城総合事務所